

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年1月14日 (2010.1.14)

【公表番号】特表2009-520023(P2009-520023A)

【公表日】平成21年5月21日 (2009.5.21)

【年通号数】公開・登録公報2009-020

【出願番号】特願2008-547181(P2008-547181)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 33/26 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/198 (2006.01)

A 6 1 K 31/428 (2006.01)

A 6 1 K 47/36 (2006.01)

A 6 1 K 47/10 (2006.01)

A 6 1 K 47/26 (2006.01)

A 6 1 K 9/20 (2006.01)

A 6 1 K 9/12 (2006.01)

A 6 1 K 9/48 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 33/26

A 6 1 P 25/00 1 0 1

A 6 1 K 31/198

A 6 1 K 31/428

A 6 1 K 47/36

A 6 1 K 47/10

A 6 1 K 47/26

A 6 1 K 9/20

A 6 1 K 9/12

A 6 1 K 9/48

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月20日 (2009.11.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下肢静止不能症候群（R L S）を治療するための医薬品を製造するための、ドーパミンターオーバー増加薬及びドーパミン作動性受容体興奮薬から選択される薬剤、並びに生物学的に利用可能な形態の鉄の組み合わせの使用。

【請求項 2】

前記薬剤が、レボドーパ；カルビドーパ；ドーパミン；ドブタミン；ロピネロール、カベルゴリン、プラミベキソール、ベルゴリド、プロモクリプチン、ロチゴチン及びリスリドのようなドーパミンアゴニスト；セレギリン、ラサギリン及びサフィナミド（safinamide）のようなドーパミン促進性MOA - B阻害剤；並びにバノキセリン（GBR-129

09)、ラダファキシン (radafaxine) 及び SEP-226330 のようなドーパミン再取り込み阻害剤；更に薬学的に許容される塩を形成可能な前記化合物中のそれらの塩から選択される、請求項1に記載の使用。

【請求項3】

前記鉄が第一鉄塩又は水酸化物である、請求項1又は2に記載の使用。

【請求項4】

医薬品が徐放性組成物の形態である、請求項1～3のいずれか1項に記載の使用。

【請求項5】

医薬品が経口投与用である、請求項1～3のいずれか1項に記載の使用。

【請求項6】

ドーパミンターンオーバー増加薬及びドーパミン作動性受容体興奮薬から選択される薬剤、生物学的に利用可能な形態の鉄、並びに薬学的に許容される担体を含む、経口投与用の医薬組成物。

【請求項7】

経口投与用の錠剤、トローチ剤、カプセル剤又は類似の形態をした、請求項6に記載の組成物。

【請求項8】

ドーパミンターンオーバー増加薬及びドーパミン作動性受容体興奮薬から選択される薬剤、並びに薬学的に許容される担体を含む経口投与用の医薬組成物、並びに生物学的に利用可能な形態の鉄及び薬学的に許容される担体を含む経口投与用の医薬組成物を含むパッケージ。

【請求項9】

ドーパミンターンオーバー増加薬及びドーパミン作動性受容体興奮薬から選択される前記薬剤が、レボドーパ；カルビドーパ；ドーパミン；ドブタミン；ロピネロール、カベルゴリン、プラミベキソール、ペルゴリド、ブロモクリプチン、ロチゴチン及びリスリドのようなドーパミンアゴニスト；セレギリン、ラサギリン及びサフィナミド (safinamide) のようなドーパミン促進性MOA-B阻害剤；並びにパノキセリン (GBR-12909)、ラダファキシン (radafaxine) 及び SEP-226330 のようなドーパミン再取り込み阻害剤；更に薬学的に許容される塩を形成可能な前記化合物中のそれらの塩から選択される、請求項8に記載のパッケージ。

【請求項10】

生物学的に利用可能な形態の鉄が無機若しくは有機酸の第一鉄塩の形態、又は場合により炭水化物により錯体化された酸化第一鉄の形態である、請求項8又は9に記載のパッケージ。